

SONIC CITY 2025 SERIES

2:00pm, January 31st (SAT),
2026

153

ソニックシティ 2025シリーズ 第153回さいたま定期演奏会
2026年1月31日(土) 午後2時開演／ソニックシティ 大ホール

program

第153回さいたま定期演奏会 日本フィルハーモニー交響楽団

*印=バレエ

ハチャトゥリアン

《仮面舞踏会》からワルツ* (約5分)

Aram KHACHATURIAN: Waltz from "Masquerade"

J. シュトラウスⅡ世

ワルツ 《美しく青きドナウ》 (約10分)

Johann STRAUSS II: "An der Schönen blauen Donau"

J. シュトラウスⅡ世

トリッチ・トラッチ・ポルカ* (約3分)

Johann STRAUSS II: Tritsch- Tratsch Polka

J. シュトラウスⅡ世

ポルカ・シュネル 《元気にやろうぜ》 (約3分)

Johann STRAUSS II: "Frisch heran! "

J. シュトラウスⅡ世

ポルカ・シュネル 《ハンガリー万歳！》 (約3分)

Johann STRAUSS II: "Eljen a Magyar! "

チャイコフスキー

《白鳥の湖》から情景(第2幕冒頭)* (約3分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Scene (Act2) from Ballet "Swan Lake"

チャイコフスキー

《白鳥の湖》からワルツ (約8分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Waltz from Ballet "Swan Lake"

チャイコフスキー

《くるみ割り人形》からトレパック* (約2分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Trepak from Ballet "The Nutcracker"

チャイコフスキー

《くるみ割り人形》から花のワルツ* (約7分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: "Waltz of the Flowers" from Ballet "The Nutcracker"

～休憩(20分)～

ドヴォルジャーク

交響曲第9番 《新世界より》木短調 op.95 (約40分)

Antonin DVORÁK: Symphony No.9 "From the New World" in E-minor, op.95

program

指揮：飯森範親

Conductor: IIMORI Norichika

バレエ：牧阿佐美バレヱ団

Ballet: Asami Maki Ballet Tokyo

出演者：**大川航矢/西山珠里/高橋万由梨/今村のぞみ/
阿部千尋/近藤悠歩/小池京介/秦悠里愛/
土屋文太/大崎結華/池澤嘉政/小川莉音**

コンサートマスター：**田野倉雅秋** [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

照明：**山本英明** (劇光社)

舞台監督：**森脇由美子**

主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター / さいたま市 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援

埼玉県 / 埼玉県教育委員会 / さいたま市教育委員会 / 埼玉県吹奏楽連盟

協賛

パレスホテル大宮

表紙作品提供

埼玉県立新座総合技術高等学校 デザイン専攻科 村田 楓果

作品名「青の舞台」

作者コメント 「『白鳥の湖』『美しき青きドナウ』をイメージしました。
中央のモチーフを踊り子とみたて、冷たく儂い青色の舞台を表現しました。」

【アンケートのお願い】今後のソニックシティ主催公演参考のため、アンケートへのご協力をお願いいたします。アンケートにお答えいたしました方から抽選で3名様に本日の出演者飯森範親氏のサイン色紙をお送りいたします。右の二次元コードより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)



▶本公演は最終楽曲が終了し、指揮棒が下りて以降は写真撮影が可能ですが（アンコールは除く）。撮影はスマートフォン・携帯電話をご使用いただき、自席にてご着席のままお願い致します。撮影時は動画撮影・フラッシュの使用はご遠慮いただくとともに、周りのお客様へご配慮いただきますようお願い致します。



© 山岸伸

指揮：飯森 範親

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。2001年、ドイツ・ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)に着任、日本ツアーも数成功に導いた。

国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係を続け、正指揮者、特別客演指揮者を歴任。2014年、日本センチュリー交響楽団の首席指揮者に就任。2015年より世界的にも例の少ないハイドンの交響曲全曲演奏&録音という一大プロジェクトを手掛け、2025年3月に完結させた。

また、オペラでも高い評価を得ており、新国立劇場の2020/2021シーズン開幕公演であるブリテンのオペラ「夏の夜の夢」を指揮、好評を博し大成功を収めた。2024年新国立劇場「コジ・ファン・トウッテ」に続き、2026年3月には新国立劇場「ドン・ジョヴァンニ」への出演が予定されている。

現在、パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、群馬交響楽団常任指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。2025年4月より武蔵野音楽大学客員教授に就任し、後進の育成にも力を注ぐ。

オフィシャル・ホームページ <http://iimori-norichika.com/>



© 山廣康夫

牧阿佐美バレエ団

日本バレエ界草分けの一人、橘秋子が1933年に設立した橘秋子バレエ研究所、橘秋子バレエ団を母体として1956年に設立。質の高い衣装・舞台装置による豪華な全幕バレエの上演に定評がある。上演作品はチャイコフスキーの三大バレエ『眠れる森の美女』『白鳥の湖』『くるみ割り人形』をはじめとする主要な古典全幕バレエ、文学作品をバレエ化した『ロメオとジュリエット』『三銃士』、ジョージ・バランシン振付『セレナーデ』、サー・フレデリック・アシュトン振付『ラ・フィユ・マル・ガルデ』、ローラン・プティ振付『ノートルダム・ド・パリ』『アルルの女』『若者と死』『デューク・エリントン・バレエ』など近現代の著名な振付家の作品まで、幅広いレパートリーを持つ。新しい全幕バレエの創作にも積極的に取り組み、映像演出を大胆に取り入れた『飛鳥 ASUKA』は、海外公演でも大きな成功を収めた。海外から著名な振付家、美術家、教師、舞踊家らを招聘し、質の高い舞台を上演する継続的な公演活動と、関連の教育機関（橘バレエ学校、AMステューデンツ、日本ジュニアバレエ、牧阿佐美バレエ塾）の一貫した教育システムにより、国内外で活躍する数多くのダンサーを輩出している。<https://ambt.jp>

新 ~新年の寿ぎ、新時代への想い~

「ワルツ王」の愛称で親しまれ、オーストリアの都ウィーンを象徴する存在として、特に新年には華麗なダンス音楽が今もなお取り上げられるヨハン・シュトラウスⅡ世（1825-1899）。彼が1867年に作曲したのが、有名なワルツ『美しく青きドナウ』である。

だがその優美な響きとは裏腹に、曲の誕生には暗い背景がある。前年の1866年、隣国のプロイセンとの戦争で、オーストリアは大敗北を喫した。そうした中で、シュトラウスⅡ世は意気消沈するウィーン子を慰めるべく、ウィーン、さらにはオーストリアを象徴する大河であるドナウ河をタイトルに戴いたこの作品を発表した。

シュトラウスⅡ世の数あるダンス音楽の中でも有名な曲の1つが、『トリッチ・トラッチ・ポルカ』だろう。題名にもなった「トリッチ・トラッチ」とは、お喋りの擬音、日本語に訳せば「ペちゃくちゃ」という意味になる。この曲が作られた1858年当時、シュトラウスⅡ世をめぐって恋愛の噂が立っており、それがウィーンで発行されていた『トリッチ・トラッチ』というゴシップ誌にも取り上げられた。そんな状況を巧みに利用し、湧きたつのようなテンポで書かれた1曲である。

ポルカ・シュネル『元気にやろうぜ』は、1880年の作品。内憂外患に晒され続けていたオーストリアの状況を反映するかのように、聴き手／踊り手を鼓舞するようなタイトルと響きを併せ持った1曲となっており、ジャーナリストたちの催す舞踏会で初演された。

ポルカ・シュネル『ハンガリー万歳！』も、『美しく青きドナウ』と同様、プロイセンにオーストリアが敗北を喫した出来事と関係する。敗戦以降、プロイセンをはじめとする対外勢力の脅威に晒されるようになったオーストリアは、国内の安定化を図るべく、いわば属国の状態においていたハンガリーの主権を認め、「オーストリア＝ハンガリー帝国」を発足させる。その2周年を祝ってハンガリーに捧げられたのが、ハンガリー風の響きに溢れた当ボルカだ。

現在は独立国家であるが、19世紀から20世紀末に至るまでロシアの支配下に置かれていたジョージア（グルジア）。20世紀、つまりソ連時代のロシアを代表する作曲家として知られるアラム・ハチャタウリアン（1903-78）も、この地方の出身である。またそれゆえに彼の作品にも、豊かな民族色と、一筋縄ではゆかないしたたかさが具わっている。

1941年に書かれた劇音楽『仮面舞踏会』に登場する『ワルツ』も、その1つ。優美はあるものの、その裏におどろおどろしい暗さがつきまと。というのも『仮面舞踏会』という劇自体、帝政ロシア時代の貴族社会の中で起きた嫉妬や殺人をテーマにした内容だからだ。

シュトラウスⅡ世とほぼ同時代にロシアを中心に活躍したのが、ピョートル・チャイコフスキ（1840-93）。土俗的な色彩の強かった従来のロシア音楽に、西欧風の洗練された新風をもたらしたことで頭角を現しつつあった彼は、やがてモスクワのボリショイ劇場から新作バレエの作曲を依頼される。

こうして1877年に初演されたのが、魔法にかけられて白鳥の姿に変えられてしまった王女と、彼女に恋した王子の悲恋純愛を扱った『白鳥の湖』だ。『情景』や『ワルツ』などの名曲を含んでいるが、自分が初めて手掛けたバレエということで、チャイコフスキーとしても不満があったのだろう。後年改訂が進められるが、突然の死によって中断され、第三者の改訂が加えられていった。

いっぽう『くるみ割り人形』は、1892年の初演。バレエ音楽の分野でも功成り名遂げたチャイコフスキーに対し、サンクトペテルブルクのマリインスキー劇場からの依頼がおこなわれた。クリスマスの夜に起きた、少女とくるみ割り人形の織り成す幻想的な恋愛メルヘンであり、ロシア風の踊りの『トレパック』や『花のワルツ』は、少女がたどり着いたお菓子の国で繰り広げられる踊りである。

伝統に新風を採り入れる…。これは、ボヘミア（現在のチェコ西部）出身のアントニン・ドヴォルジャーク（1841-1904）においても例外ではない。壮年期を迎え、功成り名遂げた音楽家だったにもかかわらず、彼は当時新興国と見なされていたアメリカのニューヨークの音楽院院長職を打診され、それを引き受けた。そしてアメリカに渡ることによって、この地の様々な音楽文化に触れ、それを自らの作品に反映させていった。

ところが、やはりどうしてもアメリカになじめなかつたドヴォルジャークは、この地からはるかに離れたヨーロッパを、とりわけこの頃はオーストリアの支配下に置かれ、独立を果たせなかつた祖国ボヘミアへの郷愁を募らせてゆく。このような、新世界における新たな発見と、彼方に仰ぎ見る祖国との狭間で1893年に完成されたのが交響曲第9番『新世界より』。アメリカという新世界と出会うことで得た未体験の音楽文化を下敷きにしながらも、懐かしいヨーロッパ、ひいてはボヘミアに寄せ続けた痛切な思いの結晶である。

オペラと音楽

2025年10月、新作オペラ「平家物語」の初演が、大宮ソニックシティの主催によって行われました。それを記念して今シーズンのコラムでは、日本フィルさいたま定期演奏会で取り上げられる作曲家と「オペラ」や「歌」の関係にまつわるエピソードをお届けします。

「ワルツ王」最後の野望



『騎士パズマン』のピアノ伴奏譜の表紙。1892年。

「ダンス音楽の作曲家」あるいは「オペレッタの作曲家」としてどことなく軽く見られてきた自分に、音楽家としての搖るぎない箔をつけたいという思いもあったのだろう。

こうしてシュトラウスII世は数年間もの歳月をかけて、オペラを完成させる。題名は『騎士パズマン』、初演の場所は世界のオペラハウスの中でも最高峰といえるウィーン宮廷歌劇場（現在のウィーン国立歌劇場）、初演日も1892年の元日という特別な日程が組まれた。

だが台本が拙劣だったこと、しかもシュトラウスII世の持ち味である湧きたつようなダンス音楽の要素が、オペラへの挑戦を意識しすぎることによって控えめになってしまった。初演は大失敗に終わり、数回の再演の後にお蔵入りしてしまった。

こうして、シュトラウスII世にとってのいわば最後の野望は潰えた。その後、彼は再びオペレッタも作曲するが、そちらも鳴かず飛ばずの状態のまま、1899年に息を引き取った。

本日の演奏会でも多数の作品が演奏されるシュトラウスII世。ウィーンの伝統を汲んだ多彩なダンス音楽を作り、「ワルツ王」の名前で親しまれた彼は、40歳台になると新たな世界へと足を踏み出す。これまでダンス音楽で培ってきた経験を基に、それらを満載したオペレッタの作曲を始めたからだ。

オペレッタは、元はと言えば「小さな／軽いオペラ」という意味。壮大さや深刻さが売り物のオペラとは対照的に、肩の凝らない喜劇的な内容が特徴だった。なおオペレッタが誕生したのは19世紀半ばのフランスで、その立役者となったのが『天国と地獄』でもお馴染みのジャック・オッフェンバッカ（1819-80）。彼の作品が国境を超えてウィーンでも大流行し、その人気にしてシュトラウスII世も乗った格好だ。

こうしてシュトラウスII世は、『こうもり』や『ジプシー男爵』といったオペレッタでも大成功を収めてゆくのだが、彼にはさらなる野望があった。それは、オペラの世界で成功を収めること。またそれによって、

文章：小宮正安

日本フィルハーモニー交響楽団



〈指揮〉
カーチュン・ウォン

【首席指揮者】
Conductor: Kahchan WONG, Chief Conductor
○ 阿里思·宋

芥川也寸志:
交響管絃楽のための音楽

R. シュトラウス:
ホルン協奏曲第1番
変ホ長調 op.11 TrV.117

ストラヴィン斯基:
バレエ組曲《火の鳥》

(1945年版)

AKUTAGAWA Yasushi: Music for Orchestra Siegfrieds

Richard STRAUSS: Concerto for Horn and Orchestra No.1 in E-flat major, op.11 TrV.117

Igor STRAVINSKY: Ballet Suite "Firebird" (1945 ver.)

時代を超える閃光
引き出す原色の響き、
カーチュン・ウォンが

第261回芸劇シリーズ *Geigeki Series*

2026年3月8日(日)

14:00開演[13:00開場]

東京藝術劇場コンサートホール

14:00, Sunday, 8th March, 2026,
at Tokyo Metropolitan Theatre



〈ホルン〉
信末碩才

【首席奏者】
Horn: NOBUSUE Saito,
Principal Player
○ 信末碩才

料 金 (税込)

2025年11月26日(水)発売

S席 8,000円 / A席 6,500円 / B席 6,000円 / C席 5,000円 / Ys席(25歳以下) 2,500円 / Gs席(70歳以上) 5,000円

Ys席およびGs席は日本フィルでのみ販売します。G席は海外から運ばれます。＊会員登録完了後はご購入ください。

チケット購入後は必ず会員登録をお願いいたします。あらかじめご了承ください。

チケット購入後もお客様の方は別途引きこなさりますので、チケットセンターまで問い合わせください。

チケット購入後もお客様の方は別途引きこなさりますので、チケットセンターまで問い合わせください。

主催: 公益財團法人 日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 駐日シンガポール共和国大使館

お申込み
お問合せ

日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911 [平日10:00~17:00]
eチケット♪ 票を撮んでお申込みできます <https://eticket.japanphil.or.jp>



チケットぴあ <https://www.pia.jp/t/japanphil/>
e+【イープラス】 <https://eplus.jp/>
ローソンチケット <https://l-tike.com> Lコード:31046

東京芸術劇場ボックスオフィス <https://www.geigeki.jp/ticket/>

(開場90分前)

株式会社明治書房 東京芸術劇場 挑戦予約フォーム 電話 0120-165-112 (平日10:00~17:00)

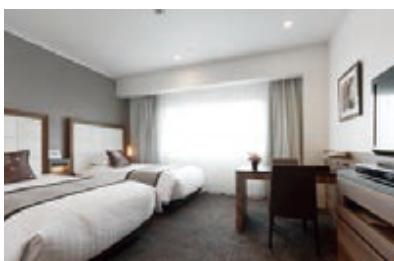
ご予約またはお問合せの際は「東京芸術劇場の挑戦予約」の件でご用意ください。

人気公演・一般公演チケット
JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
首席指揮者: 阿里思·宋

パレスホテル大宮 客室・レストラン&バーのご案内



ホテル
まち・ひと・こころをつなぐ宿



シングルルーム、ダブルルーム、ツインルーム、
スイートルーム等ご用意しております。



◆お得なプランやフェアなど、詳しい情報は下記で検索!

パレスホテル大宮

検索



<https://www.palace-omiya.co.jp>

大宮駅西口 ソニックシティ 歩行者デッキにて直結 徒歩3分

 パレスホテル大宮

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7番地5

☎ 048-647-3300